

ふくろう新聞

<発行>
 特別養護老人ホーム郷会
 淡路ふくろう報委員
 洲本市中川原町中川原28番地1
 TEL: 0799-25-8550
 FAX: 0799-25-8551
 ホームページ
<http://hyoufuku.main.jp/>
 メール
info@hyoufuku.main.jp

ふくろう新聞は今回で記念すべき100号を迎えることができました。2006年の創刊号以来、皆さまの温かいご声援・ご協力の賜物と深く感謝いたします。今後とも変わらぬご愛顧のほどよろしくお願い申し上げます。

④相談支援事業⑤地域交流事業⑥グループホーム・ケアホーム⑦地域密着型特養ホーム及び多機能施設

みんなが手話で

ふれあう島 構想

(1)聴覚障害者協会等の手話言語条例への取り組みに協力し目指す事業(2015年9月議会を目指して)①淡路聴覚障害者センターの事業拡充 言語聴覚士・臨床心理士等の確保 ②淡路市・南あわじ市内への聴覚障害者センターの設置③市民への啓発活動

入居者の思い学生に届け

11月5日に、昨年が続いて兵庫県立洲本高校に大矢施設長を始め、入居者5名と一緒に講演に行きました。入居者の声である「もつと生きたい、学びたい」「福祉年金が命の綱、食費・居住費の負担増、困ります」を伝えるために、入居者自ら人生を語りました。



くらいでした。学生の皆さんも手話をじっと見つめ、真剣に聞いていました。以下に、学生から届いた感想を載せます。
 (相談員 竹原)

・学校に通えなかった方やいじめを受けた方がいて、これまでにとってもつらい思いをしてきたことが伝わってきました。今は、ふくろうの郷で充実した日々を送る様子を聞き、とても温かい気持ちになりました。
 ・保険料などの話を聞いて、これからの社会がもつといろんな方にとって暮らしやすい社会に改善されていくことを願います。
 ・その体験はとてつらくて思い出したくもないはずなのに、私たちのために一生懸命に話をしてくれて、本当に強いなあと感じました。
 ・皆さんももっと話してみたい、一緒に何かしたいと思いました。

事業構想 次の10年に向けて

来年で創立10周年を迎える当法人では、手話言語法・条例の制定に向けて盛り上がる機運や3年後に開始予定の中川原スマートインターチェンジ計画を視野に入れて、次の10年に向けた事業構想について、当事者の皆さん・地域の皆さん・関係団体の皆さんと意見交換し、聴覚障害者の社会的自立と地域の振興へと繋げてゆきたいと考えております。また、皆様からのご意見も募集しています。

神戸ろうあハウス移転計画

(1)神戸市聴覚障害者総合福祉センター等の建設①就労支援B型 神戸ろうあハウス移転②障害児放課後等デイサービス ③中途失聴難聴者社会参加リハビリテーション事業

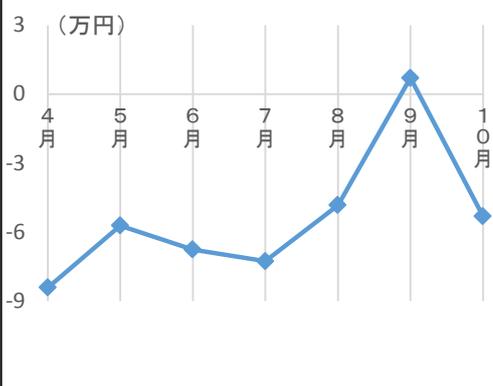
(2)連合町内会等との共同による地域活性化に向けた取り組み 三年後の中川原スマートインター整備を地域おこし・活性化への貢献①観光農園の開発②道の駅・レストランへの参加③農学校(仮称)の設立で世代交流農業研修④ケアホーム・グループホームなど宿泊生活施設

(事務員 川満)

法人役員会の報告と二〇一四年度上半期決算の概要

11月22日に開催された法人評議員会並びに理事会において、①二〇一四年度上半期の事業報告②二〇一四年度上半期決算報告③監事監査報告④就業規則の一部改正が承認されました。

事業報告に係る監事監査報告(村井監事)では、おたがいさま中川原事業が7月に目標を達成できたこと、おのこの家が新たに始めた農業事業による地産地消の拡大への期待が報告されました。ふれあいセンター事業は赤字続きではあるものの、グラフの通り徐々に収支増の傾向にあり、下半期での更なる頑張りも期待できます。



	実績	予算比
介護保険収入	1億9175万円	102%
収入合計	2億271万円	103%
人件費	1億1046万円	102%
事業費	3026万円	93%
支出合計	1億9606万円	99%

上半期の収支差額は665万円の黒字(昨年比697万円減)です。

二.法人全体の財政の状況

10月末の資金収支及び事業活動収支計算書では、経常収支差額が3683万円(寄付金収入463万円を含む)となっていますが、センター受託

金や減価償却費、賞与などの月平準化によって、寄付金を除く本業の6か月間(上半期)の収支差額は500万円の黒字で去年比543万円の収支差減となっています。

このように、ふくろうの郷と法人全体の経営はわずかな黒字(寄付金を含めて964万円程度、中川原新規事業は728万円の赤字、おのこの家もギリギリの収支差とそれぞれ厳しい状況に置かれています。

三.就業規則の改正

法人設立当初に制定した就業規則の内容を現状に合わせる改定と休日の取り扱いを労働組合との協議に基づき改定をしました。組合にとつては、実質的に休日が増える改定案でしたが、新たに提案されたリフレッシュ休暇の導入を含め承認されました。

厳しい財政状況のなかでも、労働組合の声を汲んだ希望ある踏ん張りを職員ともに示していかなければいけません。

(事務員 川満)

台風被害の修繕に

温かいご支援

続々集う

淡路ふくろうの郷は設立後10年を迎えようとしています。その年数に伴って、建物にも老朽化が目立つようになってきました。またこの間、数多くの台風や大雨、昨春の地震を経て、その都度補修を行ってきました。しかし今年



は台風や大雨が一際多く、地盤の緩みが目立ってきています。特に施設裏山の法面が徐々にひび割れ崩れてきています。このままでは法面の土砂が側溝を塞いでしまい、雨水が入居者の居室に迫る恐れがあるので、早急な対応が必要で

ます。そのことを施設長ブルグに掲載しましたところ、いつもも当法人を支えてくださっている『ひようご聴障ネット』から「支援を考えます」とのお言葉をいただき、百万円の支援金をいただけることになりました。また当施設建設の際、先頭切ってお金を集めてくださった公益社団法人兵庫県聴覚障害者協会、兵庫手話通訳問題研究会、兵庫県手話サークル連絡会の皆さんや地元淡路の聴力障害者協会、手話サークルの皆さんもカンパを集めてくださっています。その取り組みに負けじと職員も動き始めています。利用者の暮らしを守るため、皆さま方からも温かいご支援をいただけますよう、お願い申し上げます。

(事務長 橋詰)

今年もお疲れ様でした！

ふれ愛まつり反省会 おいしいお鍋で打ち上げ



鍋を囲んで、お互い労いました

第9回ふくろうふれあい祭りが無事に終了し、11月10日(月)に地域交流会の方々と手話サークル・淡聴協が初めて合同での反省会を含めた打ち上げを行いました。

5種類のお鍋(レモン鍋・寄せ鍋・だまっこ鍋・カレー鍋・豆乳みそ鍋)を囲み、それぞれの味を楽しみながら、会話にも花が咲き、温かく楽しいひと時を過ごすことができました。

毎年、ふくろうふれあい祭りを支えて下さる地域交流会の皆様、手話サークル・淡聴協の皆様、本当にありがとうございました。

来年のまつりは10回目です。同時開催の中川ふれ愛センターも含めて、全ての世代が集う盛大な祭りとなりますよう頑張っていきます。

(生活援助員 野地・谷口愛)

京都いこいの村梅の木寮で全国高齢聴覚障害者施設の入居者交流会

11月13、14日と、全国高齢聴覚障害者福祉施設連絡協議会の利用者交流会に淡路ふくろうの郷より5名の入居者が参加しました。

1日目は従来型を改装して全個室ユニット化されたいこいの村梅の木寮の見学をされました。以前の梅の木寮を知っていた方は、「こんなに綺麗になるなんて...!」と驚かれています。夜のホテルでの交流会では北海道、広島、埼玉、大阪、福岡、京都の方々と話はずみ、皆さんとても喜ばれていました。

2日目は金閣寺へ参拝に行きました。紅葉シーズンということもあり、大変混雑していましたが、金閣寺と紅葉の美しさを堪能されました。

途中、少し長い距離を歩かなければならず、歩き疲れた様子も見られましたが、皆さん一様に「楽しかった!」とおっしゃっていました。

毎年参加されている谷妙子さんは、「来年、また会う約束をしました。」と毎年、会うことを楽しみにされています。

(生活援助員 原口)

胃ろうになってもまた食べたい!

11月8、9日に、大阪府堺市で開かれた第18回全国聴覚言語障害者福祉研究交流集會に参加しました。今年は去年に続いて谷信義様の摂食嚥下リハビリに関するレポート発表を、谷信義様、妙子様ご夫婦と言語聴覚士と一緒にを行いました。信義様にとっては久しぶりの遠出で、2時間の車移動にお疲れの様子でしたが、喫茶店に行つて大好きなコーヒを飲みたいという希望も叶えられ、参加して良かったという言葉をお心にした研究・発表をしていきたいと思ひます。



▲全国の方と名刺交換、来年も会おう!

自分史を作成しています

1. 「私の生い立ち 私の思い出」
土居 文子氏
2. 「大切な思い出 昔から今まで」
中村 正一氏
3. 「辛島ツツカさんの人生」
甥 辛嶋 正氏の語り

今年度中の完成を目指して、編集をしています。ご期待ください!!



▲久しぶりに喫茶店でのコーヒーを楽しむ谷信義様。トロミを付けたコーヒーをご自分で飲まれました。

発表者の齋藤と一緒に自らの取り組みを伝えていただきました。ご本人の気持ちを大切にしたい取り組みを続けていきたいと思ひます。▼



**淡路聴覚障害者
センター便り**

洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館 3階

9月に淡路島内3市議会で
国への手話言語法意見書が採
択され、続いて手話言語条例
もと、期待が高まっています。
折よく昨年度下全域を対象に
実施された聴覚障害者生活実
態調査報告書が完成したこと
もあり、まず、調査から「暮ら
し」を学ぼうと11月22日午
前、午後にわたって、ろう協、
サークル員総勢40名余りが学
習の場を持ちました。

作業委員であった大矢暹
氏は「報告書は家族の中の孤
立、隣近所の関係の希薄さ、
社会に出ても、はじめから非
正規雇用という経済的な基
盤のもろさなど、長年ろう者
として抑圧されてきた悔し
さ、つらさ、憤りなどが語ら
れている。暮らしの中身や暮
らしを支えるものを出し合
い、語り合う中で、実態を変
えていく、それが一人ひとりの
発達に繋がっていくことにな
る。勇気をもって語り、手
話言語条例につなげていこ
う」と話されました。

暮らしを語り合い、手話言語条例につなげよう

兵庫県聴覚障害者生活実態調査学習会 (11/22)



時間外の通訳依頼はどうしても遠慮
してしまふ。急病の時にすぐに対応し
てくれる制度がほしい。(ろう協、上
内亮さん)

健聴者は近くの役場でいつでも相談
できる。センターは遠いので、もっと
近くでいつでも手話を使って気軽に
相談できる場所がほしい。(ろう協、
柏木智之さん)

長年勤めているが、ずっとパート扱
い。給料のことなど話すのも恥ずかし
いが、勇気をもってろう者が置かれて
いる本当の状態を話すことも必要と
思った(ろう協、斉藤勇さん)

今日はろう者の生活の大変さに触れ
た。サークル例会では、こんな深刻な
問題まで話すことがなかった。日常的
なことも含め、ろう者がもっと暮らし
のことを語れるような場にしないと
いけないと思った。(サークル津名、
檜岡昌恵さん)

今日の学習会で具体的に何が必要な
のか、手話言語条例のイメージができ
るようになってきた。これからもう
者、サークルで話し合いを重ね、3月
に予定されている淡路耳の日の集い
には、市議員さんにも参加してもら
い、意見交換できるように内容をまと
めていきたい。(ろう協、橋詰一則さん)

ふくろうの郷の入居者の人生から学ぼう 手話奉仕員養成講座 施設見学 11/16・27

入居者の方の人生
を聞き、聴覚障害者に
対応した施設の必要
性を学んだ受講生ら。



～手話通訳者への道～ フラッシュアップ講座終了し、いざ本番!



今年度も9月から手
話全国統一試験対策講
座(フラッシュアップ)
が開催されました。平
松弘子・池上睦講師に
丁寧で細やかな指導に
いただき、12月6日試験
に臨みました。

楽々 コミュニケーション学習会

11月16日

自分のニーズをしてもらおう



▲「人と話すのが好き。会話すると心が弾んで楽しい。自分のコミュニケーションに合った環境で会話を楽しみたい」と参加者の佐藤邦弘さん。(写真右)

難聴者の方を中心に
コミュニケーション学
習会を開催しました。
「口を隠さずに話し
てほしい」「正面から話
をしてほしい」「大切な
ことは書いてほしい」
など話したい相手に自
分に合ったコミュニケ
ーション方法を伝える
ことによって相手も必
要な支援が分かること
で億劫だった会話が改
善され会話の楽しみが
広がっていく。と言語
聴覚士で講師の齋藤奈
奈さん。

おのころの家



〒656-0002
洲本市中川原町中川原 222-2
中川原ふれあいセンター内
TEL・FAX 0799-28-0995

手作り作品で交流 クリスマスツリー ブローチ作り



▲飾りつけを行うときはみなさん職人のような表情に

おのころの家では毎月第2週目の木曜日にボランティアの小林さんの協力をいただき、利用者さんと一緒になって自主作品を作っています。



▲ふれあい広場ではブローチ作り

11月はいぶきの木の枝を使ってクリスマスツリー作りを行いました。

生木にボンドで飾り付けをおこない、自分だけのクリスマスツリーを作りました。

飾りをつけようにもなかなか思い通りにはいかず、大きな飾りだと落ちてしまい、つけないおす場面も見られました。

普段の作業とは違った制作活動に、参加される利用者さんの楽しみや息抜きの時間になっています。

12月はお正月に向けた作品を作る予定です。

また、ふれあいセンター内にある「ふれあい広場桜ヶ丘」でも、町内から来られて利用されている後藤州永さんから新聞紙や広告で作るブローチを教えていただきました。

きつかけは後藤さんが作った手作りブローチを見たおのころの利用者の方が「作ってみたい」と興味をもたれたことから教えていただくことになりました。

「中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター」の名前通り、障がいの有無など関係なく、ひとつの作品作りを通して新しい出会いと交流が生まれています。

今後ふれあいセンターを中心に様々な人と人との交流を広げて行けるように取り組みたいと思います。

おのころの家農業日誌⑥



▲イチゴの苗を男性陣で土にまみれながら植えました。

ふれ愛まつりでご協力いただいた中川原町の方からイチゴの苗を分けていただけることになり、来春の収穫を目指してイチゴ作りをはじめました。

畑への肥料も町内の方から牛糞を分けていただき、利用者5人で畑にばらまいて耕うん機で耕しました。

耕うん機を使うのは初めてという西本さんは、機械の振動で「まっすぐ進めない、むずかしい」と、言いながらも何回も挑戦して畑を耕してくださいました。

また、先に植えていたキャベツやブロッコリー、カリフラワーに虫がつき、穴だらけにさ

「おたがいさま中川原」「ふれあい広場桜ヶ丘」の運営への要望書を洲本市へ提出

中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター内で地域の方々との協働・共同で行っている「おたがいさま中川原」「ふれあい広場桜ヶ丘」に関して、今まで地域・法人を中心として活動してきましたが、「地域包括ケアシステム」が叫ばれる中、地域・法人・行政が力を合わせ活動していくことがシステム実現の第一歩である、というふれあいセンター運営委員会メンバー共通認識のもと、このたび運営基盤強化・改善について洲本市へ要望書を提出することになりました。

地域の発展に当センターの取り組みが一助となるよう今後も進めていきたいと思っております。

(担当：濱田)

れてしまい、畑に出て野菜を見守り育てていくことの大変さを感じています。

畑作業以外では、「おたがいさま中川原」で地域に出て草刈りや枯れ木の伐採などの作業を行っています。



▲二人協力して枯れ木を伐採

続々・地域を語る

中川原むかし話

かるた 口説き

北岡 肇

No.5

えびすさんをまつり

大漁を祈る厚浜

えびすさんをお祀りして
ます厚浜は、洲本市中川原町厚
浜地内で、東は大阪湾に面し、
北は同市安平町平安浦を境に、
南は炬口浦に接し海岸の浜
長・20丁ほど(約2^キ)と味
地草に書かれています。

また淡路百景の「水の大師の
名勝」も同地区にあります。㊦
でくわしく紹介いたします。

戦前戦後の漁業者は炬口漁
業組合の組合員で、専業漁業者
の方はなく殆どが半農半漁で
組合員は10数戸を数えていま
した。

その当時大阪・今宮の戎神
社、西宮の戎神社から「えびす
さん」をお迎えして砂浜の北の
端、元の民宿松山閣の浜側に祠
を立てお祀りしたのが始まり
と言うことです。

漁業は、漁区内の底引き網が

殆どで、えびすさんをお祀りし
て以来、漁に出る時は必ずえび
すさんに塩とお神酒を供え海上
の安全と大漁をお祈りして舟を
下ろし、漁を終えて舟を丘へ上
してからも漁が多くても少なく
ても必ず「ありがとう」と感謝
し、次の大漁をお祈りしたそう
です。

しかし、漁師の高齢化と後継
者の漁業離れと共に組合員がだ
んだんと少なくなりました。漁業組合
の役員も2人出ていましたが1
人となり、最後には0となりま
した。

また、こんなこともありまし
た。沖へ漁に出て底引網を地方、
波打ち際まで引き寄せてきても

引きあげる人手が少なく(約10
人必要) 山手の人達を助っ人に
呼びよせ網を引き上げる一幕も
ありました。私も昭和の終り頃

であったか加勢して網を引きあ
げ、お札にお魚を頂いたことが
記憶に残っています。

そして、時代の移り変わりと
共に浜に漁師さんがとうとう居
なくなりました。

今では快遊船が数隻係留さ
れ、お参りしたり、お祀りした
り、「えびすさん」も丘の上から
浜の人達を見守っています。

テイスサービスセンター

桜ヶ丘

ランチバイキング

南あわじ国民休暇村

11月16日(木)に南あわじ市
にある国民休暇村に行つてきま
した。

先月実施した有馬温泉への外
出ができなかつた方に、「淡路島
内であれば、お風呂と食事がし
たい」との希望が多く、今回の外
出となりました。

当日は、少し寒さが感じられ、
曇り空という生憎の天候でした
が、皆様参加してくださいまし
た。

参加される方は、目が見えない
方や、難聴の方、健聴の方と一
緒に参加されました。

昼食は、中華バイキングで皆さ
んそれぞれにお好きな料理を選
んで、召し上がっていました。

食事中も利用者さま同士で
「これおいしいで」と話かけて料理
をすすめると「それやったらも少
し食べてみよか」と、味見をされ
る方もいました。

皆さんバイキングを楽しまれた
後は、入浴の希望がある方には、
お風呂に入っていたきました。

露天風呂は少し寒かつたそう
ですが、内風呂では「久しぶりに
お風呂に入れてきれいな景色も
観れた」と喜ばれていました。

利用者の意見を聴き、取り入
れながら次回の外出計画を立て
ていきたいと思えます。

(担当:酒井)



▲トレーにいっぱいの中華料理を楽しめました。

デイサービスセンター 桜ヶ丘

お問い合わせ先

TEL:0799-28-0993

FAX:0799-28-0992

受付:平日 8時30分~

17時30分(土日祝休み)

担当:竹内

いつもご支援ありがとうございます

入居者の大東様のご家族から灘の
甘いみかんをいただきました。

今、玄関を飾っているのは
綿の木です。地域の北岡様
にいただきました。



作品介绍

11月19日
絵手紙講座



「ちいさい秋みつけた」
西田梅子様(80歳)